
平成 26 年度（2014 年度）事業報告書

（平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで）

学校法人 共済学園

平成 26 年度（2014 年度）

事業報告書

目次

I 学園の概要

1. 設立の背景と理念 1P
2. 設置する学校・学部・学科等 1P
3. 学生数 2P
4. 専任教職員数 2P
5. 役員数 2P

II 事業の概要

1. はじめに 3P
2. 大学について 3P

III 財務の概要

1. 資金収支計算書 11P
2. 消費収支計算書 15P
3. 貸借対照表 17P
4. 計算書類（別添）

学校法人 共済学園

I 学園の概要

1. 設立の背景と理念

我が国は、第2次世界大戦の敗戦により荒廃した社会の中で文字どおりゼロからスタートしました。そして戦後70年を数え、この間、国民のたゆまぬ努力により、科学技術の高度な進展とともに工業技術の発展を遂げ、世界有数の経済大国・技術大国に成長しましたが、人間性の高揚においては未だしの感あり、今後は文化大国を目指して、前進致さねばなりません。一方、乳幼児死亡率の低下と公衆衛生ならびに医療の向上により国民の寿命は飛躍的に延び、今日ではいわゆる高齢化社会を迎えたところであり、今後ますます高齢者が増加すると予測されています。

このような高齢化社会にあって、すべての国民が豊かな老後を過ごすためには、国民一人ひとりが心身ともに健康で生甲斐をもって日々充実した生活を送ることが必須であります。このために医学の分野のみならず、保健医療福祉の分野の充実・拡充が急務となっております。

今日の医療現場では、医師のみならず看護師、臨床心理技術者、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士その他の医療専門スタッフがチームを組み、一体的にケアに当たるいわゆるチーム医療の必要性が叫ばれており、それぞれの専門職の養成と資質の向上が緊急の課題となっております。

このような社会の要請に鑑み、私たちは、保健医療分野の充実を図るため「日本保健医療大学」を設立し、気品の泉源、智徳の模範を目指し「人間性（儒教の三綱五常の精神を基本とする）の高揚と、共存共栄の精神（共済主義、又は共済主義精神）」を理想に掲げ、高度の専門性を持って幅広く活動できる保健医療の専門職を育成し、人類の平和と高度な文化の実現に貢献しようとするものであります。

2. 設置する学校・学部・学科等

○日本保健医療大学 (平成22年4月開校 平成21年10月30日 設置認可)

保健医療学部

・看護学科

3. 日本保健医療大学の入学定員・収容定員・在籍者数等

保健医療学部 入学定員 100人 収容定員 400人 ()は男性数

| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年(卒業生) | 合計 |
|------|----------|----------|----------|----------|-----------|
| 看護学科 | 112 (35) | 124 (26) | 115 (28) | 117 (24) | 468 (113) |

(H27.3.31現在数)

4. 専任教職員数

教員

()は男性数

| | 教授〔学長〕 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 | 合計 |
|-----|--------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 基礎系 | 5 (3) | 1 (1) | 1 (1) | 0 (0) | 0 (0) | 7 (5) |
| 看護系 | 10 (1) | 8 (0) | 6 (0) | 2 (1) | 5 (1) | 31 (3) |
| 計 | 15 (4) | 9 (1) | 7 (1) | 2 (1) | 5 (1) | 38 (8) |

※非常勤教員：54、非常勤助手：16

(H27.3.31現在数)

職員 ()は非常勤・派遣数

| | |
|------|--------|
| 事務局長 | 1 (0) |
| 教務課 | 11 (3) |
| 総務課 | 6 (1) |
| 図書館 | 2 (2) |
| 校務員 | 3 (3) |
| 計 | 23 (9) |

(H27.3.31現在数)

5. 役員数

| | 定員 | 現員 |
|-----|-------|----|
| 理事 | 10～12 | 12 |
| 監事 | 2 | 2 |
| 評議員 | 21～25 | 25 |

(H27.3.31現在数)

II 事業の概要

1. はじめに

平成 26 年度は昨年引き続き、五回生となる入学生を受け入れた。昨年までは、認知度の高まり等から志願者数が増加傾向にあった。18 歳人口が減少する中、全国的に看護学科の新設が増えたこと（日本看護系大学協議会加盟数：248）、また近隣に看護学科が新設される等が要因の一つとなり今年度は志願者数が減少したが、保健医療学部看護学科の定員 100 名に対し、入学者としては定員の学生数を確保することができた。看護師・保健師の資格取得志向が強まる中、本学の理念が受験者や保護者に受け入れられたものとする。

専任教員に対しては、FD に関する研修会として、本学の設立の趣旨・目的、運営の方法等についての講演や討議を行い、共通認識を深めた。また、外部講師による FD に関する講習会も実施した。その他に、新しく着任する専任教員を含め、全教員に対し、本学の基本方針を説明し、質疑等を行った。

学生に対しては、授業開始前にガイダンス期間を設け、日本保健医療大学の理念、日本保健医療大学が求める学生像、教育目標、学部学科の特色、授業科目の履修、学生生活等について詳細な説明を行った。また、担任制度、学習指導教員、Student Life 委員などによる指導、支援も逐次行い、充実した学生生活を送れるよう取り計らっている。

今後は、計画に基づいて教育課程の実施を着実に進めるとともに、一層の教育効果の向上を目指して教育方法等の工夫に努めたい。

2. 大学について

(1) 事業の概要

大学校務に関する事

- ・平成 26 年 4 月 1 日 第 5 回入学式・保護者説明会
- ・平成 26 年 4 月 2 日～4 日
新入生、在学生ガイダンス・健康診断
- ・平成 26 年 4 月 7 日 前期授業開始
- ・平成 26 年 5 月 7 日～ 公衆衛生臨地実習、学校・市町村等へ（4 年生）
- ・平成 26 年 7 月 28 日～ 課題別臨地実習、病院・施設等へ（4 年生）
- ・平成 26 年 8 月 25 日～9 月 19 日
基礎看護学Ⅱ実習（3 病院、13 病棟、123 名）
- ・平成 26 年 9 月 8 日～平成 27 年 3 月 27 日
領域別臨地実習（3 年生）（16 病院、23 施設）
- ・平成 27 年 2 月 18 日 第 1 回看護白衣式（1 年生 111 名）

特別講演会 演題 「災害と看護」
講師 柳沢香枝先生 JICA理事

・平成27年3月2日～3月13日

基礎看護学Ⅰ実習 (2病院、14病棟、111名)

入試

- ・平成26年8月27日 第1回 選抜入試
- ・平成26年10月5日 第2回 選抜入試
- ・平成26年11月3日 第3回 選抜入試
- 第1回 推薦入試
- ・平成26年11月24日 第4回 選抜入試
- 第2回 推薦入試
- ・平成26年12月7日 第5回 選抜入試
- 第3回 推薦入試
- ・平成26年12月23日 第6回 選抜入試
- 第4回 推薦入試
- ・平成27年1月11日 第7回 選抜入試
- 第5回 推薦入試

- ・平成27年1月24・25日 第1・2回 一般入試
- ・平成27年2月2・3日 第3・4回 一般入試
- ・平成27年2月11日 第5回 一般入試
- ・平成27年2月19日 第6回 一般入試
- ・平成27年2月27日 第7回 一般入試
- ・平成27年3月8日 第8回 一般入試
- ・平成27年3月24日 第9回 一般入試

センター試験利用入試

- ・平成27年1月6日～1月30日 第1回
- ・平成27年2月2日～2月9日 第2回
- ・平成27年2月11日～2月18日 第3回
- ・平成27年2月19日～2月26日 第4回
- ・平成27年2月27日～3月5日 第5回
- ・平成27年3月6日～3月17日 第6回

大学説明会

- ・平成 26 年 6 月 20 日 高校教員向け説明会 (12 高校参加)

オープンキャンパス

- ・平成 26 年 7 月 5 日 (土) ・平成 26 年 7 月 19 日 (土)
- ・平成 26 年 8 月 10 日 (日) ・平成 26 年 8 月 23 日 (土)
- ・平成 26 年 9 月 6 日 (土) ・平成 26 年 10 月 26 日 (日)
- ・平成 26 年 11 月 15 日 (土) ・平成 26 年 12 月 20 日 (土)

地域貢献

○子ども大学さって

- ・9月7日(日) 10:30~12:00 [第1回目]

山西実 子ども大学学長(幸手市教育長)の開校挨拶の後、入学生紹介(幸手市の小学4年生~6年生24名)があり、学生代表のことばの後、渡辺邦夫幸手市長が来賓祝辞を述べた。その後に記念撮影を行って、3階の階段教室に移動し、講義を受けた。

【はてな学】「ヒトの身体の不思議な世界」 受講者 24 名

講師 松山永久 日本保健医療大学 人体構造学 准教授

- ・9月20日(土) 10:00~11:30 [第2回目]

【はてな学・生き方学】「アニマルセラピーってなあに？」 受講者 22 名

～セラピー犬とふれあおう～ 見学者 20 数名

講師 熊坂隆行 日本保健医療大学 成人看護学 教授

中村 幹 山梨セラピードッグクラブ

- ・11月29日(土) 9:45~11:15 [第4回目] 受講者 18 名

【はてな学】「暗唱で味わう詩の世界」

講師 正田泰基 日本保健医療大学 健康体育学 講師

講義終了後に修了式が行われ、山西実 子ども大学学長(幸手市教育長)から修了証が授与された。その後、平良専純 日本保健医療大学学長から祝辞が述べられた後、全員で記念撮影を行った。

○公開講座

第 8 回目 平成 26 年 11 月 1 日（土）13：00～16：00

テーマ からだを知って、からだのリフレッシュ

講演 1 「骨格と関節は、その人の人生を語る」

講 師 松山永久 日本保健医療大学 人体構造学 准教授

講演 2 「自分でもできる浮腫（むくみ）ケア」

講 師 荒井よう子 ILFJ 国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン監事

太田記念病院 リンパ浮腫外来

対 象 幸手市民 定員 80 名

入場者 72 名 ※当日は雨天により欠席者 17 名

場 所 日本保健医療大学 講義室 1

○その他

- ・ 11 月 2 日（日）幸手市健康福祉まつりに、医療系大学のボランティアサークル活動として、数名の学生がブースに参加した。
- ・ 正田泰基講師が、幸手市教育委員会から、『平成 25 年度教育委員会重点施策にかかる事務に関する点検及び評価報告書（案）』への知見について依頼され、提言を行った。
- ・ 池田智子教授が、平成 27 年 1 月 29 日付で、幸手市長より幸手市介護認定審査会委員を委嘱された。

施設の整備・他

- ・ プールサイドの 5 室を研究室と小教室等に改修工事を行い、什器等を整備した。
- ・ パソコンの WindowsXP のサポート終了に伴い、Windows7 への移行を行った。
ハードウェア入替 13 台、ソフトウェアアップデート 70 台、合計 83 台。
- ・ 3 階の大型機材室横に印刷室を整備し、使用しやすくした。
- ・ 講義室 2 及び講義室 3 の照明器具を LED 照明に取り換えた。
- ・ 構内の無線 LAN アクセスポイント導入により、インターネット環境を整備した。
- ・ 平成 27 年 2 月 27 日付で、旧埼玉県立幸手高等学校跡地を購入した。

所在地：埼玉県幸手市平須賀二丁目 555 番 1

校地：50,159.43 m²、校舎：13,010.54 m²

(2) 学生募集状況

平成 27 年度の入学試験は、選抜入試 7 回、推薦入試 5 回、一般入試 9 回と 3 年目となるセンター試験利用入試を 6 回行った。開学 6 年目ということで認知度の高まり等から、昨年度より志願者数が増加した。

昨年度、志願者数が減少したため、今年度は入試日の回数と日程を見直し、また、オープンキャンパスの開催時間を延長する等工夫をした。よって平成 27 年度は、保健医療学部看護学科の定員 100 名に対し、入学予定者としては定員以上の学生数を確保ができた。

看護師・保健師の資格取得志向が強まる中、多数設立存在する看護系大学の中から本学の理念と面倒見の良い教育が受験者や保護者に受け入れられたものと考えている。

平成 27 年度入学試験状況及び入学者数 (H27. 3. 31 時点)

| | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 |
|---------|----------|----------|----------|----------|
| AO入試 | 36 (10) | 36 (10) | 22 (4) | 22 (4) |
| 社会人入試 | 8 (3) | 8 (3) | 4 (2) | 4 (2) |
| 指定校推薦入試 | 23 (4) | 23 (4) | 23 (4) | 23 (4) |
| 公募制推薦入試 | 38 (7) | 38 (7) | 28 (5) | 28 (5) |
| 一般入試 | 205 (55) | 186 (50) | 63 (16) | 26 (5) |
| センター入試 | 109 (20) | 109 (20) | 42 (7) | 5 (0) |
| 合 計 | 419 (99) | 400 (94) | 182 (38) | 108 (20) |

() は男性数

(3) 卒業生の概況

平成26年度卒業生 進路（内定）調査結果

H27.3月現在

| | 病院・施設名 | 所在地 | 人数 |
|----|---------------------|-----|----|
| 1 | 朝霞台中央総合病院 | 埼玉県 | 1 |
| 2 | イムス富士見総合病院 | 埼玉県 | 3 |
| 3 | 春日部中央総合病院 | 埼玉県 | 2 |
| 4 | 久喜総合病院 | 埼玉県 | 1 |
| 5 | 栗橋病院 | 埼玉県 | 3 |
| 6 | 越谷市立病院 | 埼玉県 | 1 |
| 7 | 越谷誠和病院 | 埼玉県 | 1 |
| 8 | 埼玉県立病院局（県立小児医療センター） | 埼玉県 | 1 |
| 9 | 自治医科大学さいたま医療センター | 埼玉県 | 4 |
| 10 | 戸田中央総合病院 | 埼玉県 | 1 |
| 11 | 羽生総合病院 | 埼玉県 | 6 |
| 12 | 東大宮総合病院 | 埼玉県 | 3 |
| 13 | 東埼玉総合病院 | 埼玉県 | 8 |
| 14 | 三郷健和病院 | 埼玉県 | 1 |
| 15 | 三郷中央総合病院 | 埼玉県 | 4 |
| 16 | 三芳の森病院 | 埼玉県 | 1 |
| 17 | 吉川中央総合病院 | 埼玉県 | 3 |
| 18 | 板橋中央総合病院 | 東京都 | 3 |
| 19 | 国立成育医療研究センター | 東京都 | 1 |
| 20 | 国立療養所多摩全生園 | 東京都 | 1 |
| 21 | 苑田第一病院 | 東京都 | 1 |
| 22 | 高島平中央総合病院 | 東京都 | 1 |
| 23 | 東京蒲田医療センター | 東京都 | 1 |
| 24 | 東京警察病院 | 東京都 | 2 |
| 25 | 東京都立広尾病院 | 東京都 | 1 |
| 26 | 東京労災病院 | 東京都 | 2 |
| 27 | 東邦大学医療センター大森病院 | 東京都 | 1 |
| 28 | 虎ノ門病院 | 東京都 | 1 |
| 29 | 日大病院 | 東京都 | 2 |
| 30 | 日大附属板橋病院 | 東京都 | 1 |
| 31 | 日本医科大学病院 | 東京都 | 1 |
| 32 | 三宿病院 | 東京都 | 1 |
| 33 | 三井記念病院 | 東京都 | 1 |
| 34 | 山王病院 | 東京都 | 1 |
| 35 | 東京通信病院 | 東京都 | 1 |
| 36 | 立正佼成会附属 | 東京都 | 1 |
| 37 | 柏厚生総合病院 | 千葉県 | 2 |
| 38 | 柏市立柏病院 | 千葉県 | 1 |
| 39 | 行徳総合病院 | 千葉県 | 3 |
| 40 | 新松戸中央総合病院 | 千葉県 | 1 |

| | 病院・施設名 | 所在地 | 人数 |
|----|----------------|------|------------|
| 41 | 千葉西総合病院 | 千葉県 | 4 |
| 42 | 津田沼中央総合病院 | 千葉県 | 1 |
| 43 | 日本医科大学千葉北総病院 | 千葉県 | 1 |
| 44 | 順天堂大学医学部附属浦安病院 | 千葉県 | 1 |
| 45 | 千葉愛友会記念病院 | 千葉県 | 1 |
| 46 | 茨城西南医療センター病院 | 茨城県 | 9 |
| 47 | 筑波記念病院 | 茨城県 | 1 |
| 48 | 筑波大学附属病院 | 茨城県 | 1 |
| 49 | 日立総合病院 | 茨城県 | 2 |
| 50 | 汐田総合病院 | 神奈川県 | 1 |
| 51 | 桜ヶ丘中央病院 | 神奈川県 | 2 |
| 52 | 湘南藤沢徳洲会病院 | 神奈川県 | 1 |
| 53 | 聖マリアンナ医科大学病院 | 神奈川県 | 2 |
| 54 | 東戸塚記念病院 | 神奈川県 | 1 |
| 55 | 南町田病院 | 神奈川県 | 1 |
| 56 | 横浜旭中央総合病院 | 神奈川県 | 2 |
| 57 | イムス太田中央総合病院 | 群馬県 | 1 |
| 58 | 自治医科大学附属病院 | 栃木県 | 3 |
| 59 | 下都賀総合病院 | 栃木県 | 1 |
| 60 | 笛吹中央病院 | 山梨県 | 1 |
| 61 | 長野県立須坂病院 | 長野県 | 1 |
| | 合 計 | | 113 |

◎埼玉県内の就職先：17 県外：44

□就職・進路先内訳（都道府県別）

| 都道府県名 | 人数 | 割合 |
|-------|-----|--------|
| 埼玉県 | 44 | 37.6% |
| 東京都 | 24 | 20.5% |
| 千葉県 | 15 | 12.8% |
| 茨城県 | 13 | 11.1% |
| 神奈川県 | 10 | 8.5% |
| 栃木県 | 4 | 3.4% |
| 群馬県 | 1 | 0.9% |
| 山梨県 | 1 | 0.9% |
| 長野県 | 1 | 0.9% |
| 未定 | 2 | 1.7% |
| 進学・他 | 2 | 1.7% |
| 合計 | 117 | 100.0% |

94.9%

◎113名のうち、57名が奨学金の受給者（50.4%）

(4) 幸手市との連携

本学の教育・研究成果を広く社会に公開し、地元の大学として幸手市民の健康福祉・文化の向上に資することを目的として、本学の教員及び非常勤講師が講師となり公開講座を行った。公開講座は、通算 8 回を数え、確実に地元根付いて来た。また、各種の幸手市関連行事にボランティアとして参画するなど、積極的に地域との交流を行った。

3 月 11 日（水）、ウエルス幸手会議室において、幸手市長と健康福祉部長同席で、幸手市医師会、北葛北部医師会役員と、作田理事長、平良学長と懇談、意見交換を行った。

(5) 学園祭

11 月 25 日（土）、26（日）の 2 日間、第 5 回日本保健医療大学学園祭を開催した。4 月に入学した第 5 回生 116 名をリードして、新 2 年生が中心となって学園祭の運営に取り組んだ。

学習成果の発表や催し物、学園の発展を見に、2 日間で延べ約 880 余名の保護者、幸手市民、幸手市関係者、大学関係者等が見学に訪れた。

看護系大学に相応しい内容の講演や学習成果発表、健康チェックコーナー等、各グループの趣向を凝らした催しを楽しんでいただいた。

(6) 看護学実習

看護学実習の目的は、学生が学内で学んだ看護に必要な専門的知識・技術・態度を実際の場面に応用し、看護の対象を全人的にとらえ、科学的根拠に基づいた看護実践ができる能力を養うことである。

本学では、看護学実習の位置づけは、4 期に区分し、段階的な学習ができるように組まれている。

最初は、1 年次後期 基礎看護学実習Ⅰとして、3 月 2 日から 3 月 13 日の期間実施された。目的は、「看護の対象を「生活者」として理解し、看護への興味と関心を深め、4 年間の学習を動機づけること」である。実習病院は、2 施設 14 病棟に分かれ、臨地実習を終えた。1 年生は、初めての臨地実習であることから、緊張しながらも患者様とコミュニケーションを円滑にし、信頼関係を築くことの大切さを学んでいた。

次に、2 年次前期 基礎看護学実習Ⅱとして、8 月 25 日から 9 月 19 日の期間実施された。

実習目的は、「看護実践の中で対象を理解し、看護技術の適用や人間関係、看護過程を用いた看護の展開の仕方を学ぶ」ことである。実習病院は、3 施設 13 病棟に分散し実施された。2 年生の学習は 2 週間患者様を受け持ち自主的に看護実践を行ったことから、患者様との信頼関係を保つことや患者様が何を必要としているか、疾患の理解、看護の必要性等観察力を高め、患者様のニーズの理解ができるように学習を高めている。

次の段階として、3年次後期に計画されている領域別実習は、老年看護学実習（3施設 5病棟）、成人看護学実習（4施設 10病棟）、小児看護学実習（6施設）、母性看護学実習（6施設）、精神看護学実習（3施設）、在宅看護学実習（13施設）であるが、成人看護学実習は学生の学習効果を考慮し、慢性期実習・急性期実習の2領域としてあることから領域別実習7領域の臨地実習が行われた。実習の目的は、「人の発達の特徴を理解し、健康障害に対する看護のケアを実践していく学習」である。学生は半年間という長期間の臨地実習であったことから、学生自身の人間的成長を促し、既習の理論・知識の活用の仕方を学習する良い機会となっている。

学生は、臨地実習終了後、さまざまな人々と出会い人間的成長が見られ、忍耐力、相手を尊重することの大切さを学んでいた。更に、知識の統合と実践への応用について学ぶと同時に日頃の学習不足を自覚していた。

これまでの臨地実習の学びと自覚を4年次に計画されている地域看護学実習に活かされることを願い、さらなる効果的な臨地実習となることを期待し、努力する。

Ⅲ 財務の概要

■平成 26 年度決算報告

平成 26 年度決算で特筆すべき事項は、①幸手市からの毎期 1 億円の補助金が前期で終了したこと、②私学事業団からの「経常費補助金」2,682 万円を初めて取得したこと、③将来の学園拡充に備え、埼玉県から旧県立幸手高校の土地、建物を 5 億 1,479 万円で購入したこと、そして④購入資金として初めて銀行からの借入 5 億円を受けたことです。

1. 資金収支計算書

学校法人の資金移動を伴う全取引の状況を記録するとともに、現金や預貯金の状況を表しています。

【収入の部】－1 万円未満切り捨て－

資金収入の合計額は、予算比 2,789 万円の減となりました。

内訳は以下の通りです。(図表 1)

- (1) 「学生生徒等納付金収入」は授業料などの学費収入で予算比 185 万円増となりました。期中の学生数は 468 人（平成 27 年 3 月 31 日現在数）です。
- (2) 「手数料収入」は予算比 52 万円増で、前年に比べ入学検定料収入が 195 万円増加しました。
- (3) 「寄付金収入」は、今期はなかったため、予算比 200 万円の減となりました。
- (4) 「補助金収入」は、すべて経常経費補助金収入で、予算比 597 万円増の 2,682 万円でした。
- (5) 「資産運用収入」は、すべて銀行預金の利息収入で、予算比 8 万円増の 28 万円でした。現時点では元本保証のない債券投資等はありません。
- (6) 「事業収入」は、「補助活動収入」と「施設設備利用料収入」で、売店の家賃収入等が含まれます。予算額通り、60 万円の収入でした。
- (7) 「雑収入」は、(1)～(6)までに該当しない収入で、例えば「科研費間接費収入」が含まれ、予算比 5 万円増の 85 万円を計上しています。
- (8) 「借入金収入」は、銀行等からの新規借入で調達した金額で、旧県立幸手高校を埼玉県から購入した際に借入れた、短期借入金の 5 億円です。この借入金は、平成 27 年度上半期中に、長期借入に振り替える計画になっています。
- (9) 「前受金収入」は、2 億 1,232 万円（予算比 232 万円増）で、主として平成 27 年度新入生の入学手続き時の納付金のうち、当期中に受入れた分になります。
- (10) 「その他の収入」は、予算比 3,527 万円減で、主な内訳は「預り金受入収入」7,568 万円と前年度収入で当期に受け入れた「前期末未収入金収入」607 万円です。
- (11) 「資金収入調整勘定」は、前記の各収入のうち、当期中実際には資金の受け入れがなかったもので、予算比 143 万円減であったことを示す控除科目です。

内訳は「期末未収入金」（資金の受け入れが来年度になる）が 373 万円、「前期末前受金」（前年度に資金の受け入れが行われた）が 2 億 1,694 万円です。

（12）「前年度繰越支払資金」は、平成 25 年度から当期に繰り越した支払資金（現金預金残高）の額です。

【支出の部】 1 万円未満切捨て

支出総額は、予算比 2,789 万円の減となりました。

- （1） 「人件費支出」は予算比 470 万円増で、「教員人件費」「職員人件費」「役員報酬」「退職金支出」が含まれます。期中の教職員数は 61 人（平成 27 年 3 月 31 日現在数）で、前期比 10 人増です。
- （2） 「教育研究経費支出」は、予算比 632 万円増で、経費支出の内、教育活動を目的として支出した経費です。
- （3） 「管理経費支出」は、予算比 94 万円増で、経費支出の内、「教育研究経費支出」に該当しない経費支出です。
- （4） 「借入金等利息支出」は、金融機関等からの借入金の当期中の利息支払い額で、14 万円（予算比 6 万円減）です。
- （5） 「施設関係支出」は、予算比 632 万円増。
「土地支出」が埼玉県から第 2 キャンパス用に購入した旧県立幸手高校の校地 50,153.43 m²で、購入価格の 3 億 8,125 万円。「建物支出」が 1,009 万円で、プールサイドの研究室の整備等を行いました。「建設仮勘定支出」が 1 億 3,353 万円で、旧県立幸手高校の校舎購入価格です。
- （6） 「設備関係支出」は、1,038 万円（予算比 1,261 万円減）で、教具備品の購入、図書館用図書の購入、業務用ソフトウェアの購入が含まれています。
- （7） 「その他の支出」は、予算比 102 万円減で、「前期末未払金支払支出」2,508 万円、「預り金支払支出」5,885 万円、等が含まれます。
- （8） 「資金支出調整勘定」は、前記各支出項目のうち、当期中に実際には資金の支払いが行われなかったものが、3,609 万円であることを表しています。内訳は「期末未払金」（支払いが来年度になる）が、3,556 万円。「前期末前払金」（前年度に支払が済んでいる）が、52 万円です。
- （9） 「次年度繰越支払資金」は、当期から来年度へ繰り越した支払資金（現金預金の残高）の額です。

(図表 1) 資金収支計算書

収入の部

(単位：円)

| 科目 | 決算額 | 予算比差異 |
|----------------|---------------|-------------|
| (1) 学生生徒等納付金収入 | 807,850,000 | +1,850,000 |
| (2) 手数料収入 | 17,529,700 | +529,700 |
| (3) 寄付金収入 | 0 | △2,000,000 |
| (4) 補助金収入 | 26,827,000 | +5,974,000 |
| (5) 資産運用収入 | 281,966 | +81,966 |
| (6) 事業収入 | 600,219 | +219 |
| (7) 雑収入 | 853,704 | +53,704 |
| (8) 借入金等収入 | 500,000,000 | 0 |
| (9) 前受金収入 | 212,320,000 | +2,320,000 |
| (10) その他の収入 | 81,778,695 | △35,271,305 |
| (11) 資金収入調整勘定 | △220,678,033 | +1,437,033 |
| (12) 前年度繰越支払資金 | 1,196,468,217 | 0 |
| 収入の部合計 | 2,623,831,468 | △27,898,749 |

支出の部

| 科目 | 決算額 | 予算比差異 |
|---------------|---------------|-------------|
| (1) 人件費支出 | 447,700,473 | +4,700,473 |
| (2) 教育研究経費支出 | 126,528,099 | +6,328,099 |
| (3) 管理経費支出 | 48,212,643 | +942,643 |
| (4) 借入金等利息支出 | 142,919 | △57,081 |
| (5) 施設関係支出 | 525,329,009 | +6,329,009 |
| (6) 設備関係支出 | 10,383,355 | △12,616,645 |
| (7) その他の支出 | 84,661,979 | △1,021,288 |
| (8) 資金支出調整勘定 | △36,092,003 | △11,032,312 |
| (9) 次年度繰越支払資金 | 1,416,964,994 | △21,471,647 |
| 支出の部合計 | 2,623,831,468 | △27,898,749 |

2. 消費収支計算書

消費収支計算書では、「学生生徒等納付金」、「寄付金」、「補助金」などの「帰属収入合計」から「基本金組入額」を控除した金額である「消費収入の部合計」と、「人件費」、「教育研究経費」、「管理経費」など、当年度中に消費した「消費支出の部合計」を比べることで、その均衡状況を示し、学校法人の経営状況を明らかにします。

【収入の部】 1万円未満切捨て「帰属収入合計」は、予算比 622 万円増で、「基本金組入計額合」（予算比 305 万円減）控除後の「消費収入の部合計」は予算比 316 万円増でした。

図表 2 の「消費収入の部」の各項目のうち、「寄付金」以外の各項目の金額は前述した「資金収支計算書」の「資金収入」の金額と同額です。

(3) の「寄付金」は、73 万円で、すべて図書等の「現物寄付金」です。「資金収入」の「寄付金収入」に相当する「一般寄付金」については、今期はございませんでした。

(9) の「基本金組入額合計」は 2,905 万円でしたが、その内訳は①建物関係の整備で 1,009 万円、②構築物関係の整備で 43 万円、③教育研究機器備品の整備で 22 万円、④その他の機器備品整備で 111 万円、⑤図書で 132 万円、⑥第 2 キャンパス購入（土地 3 億 8,125 万円、校舎 1 億 3,353 万円、計 5 億 1,479 万円）のうち、1,479 万円、⑦ソフトウェアで 105 万円になっています。

【支出の部】 1万円未満切捨て

(1) 「人件費」は 4 億 4,935 万円（予算比 685 万円増）で、内訳のうち「教員人件費」「職員人件費」「役員報酬」については、「資金収支」と同額になります。「資金収支」とは異なる「退職給与引当金繰入」予算比 216 万円増と「退職金」は予算比 34 万円増で、退職金支給対象者の増加に備え、引当金を積み増ししています。

(2) 「教育研究経費」は、予算比 578 万円増で、「資金収支」の「教育研究経費支出」に「減価償却費」を加えた金額になっています。

(3) 「管理経費」は、予算比 156 万円増で、「資金収支」の「管理経費支出」に「減価償却費」（予算比 62 万円増）を加えた金額になっています。

(4) 「借入金等利息」は、予算比 6 万円減で、「資金収支」の「借入金等利息支出」と同額です。

(5) 「資産処分差額」は「消費収支」のみの項目で、資産を除却処分したときの簿価額になります。

以上の結果、「消費支出の部合計」は予算比 1,415 万円増で、消費収入が消費支出を上回りました。

従って、平成 26 年度末の「翌年度繰越消費収入超過額」は前期末比 1 億 2,995 万円増加しました。

(図表 2) 消費収支計算書

収入の部

(単位：円)

| 科目 | 決算額 | 予算比差異 |
|--------------|-------------|------------|
| (1) 学生生徒等納付金 | 807,850,000 | +1,850,000 |
| (2) 手数料 | 17,529,700 | +529,700 |
| (3) 寄付金 | 734,680 | △2,265,320 |
| (4) 補助金 | 26,827,000 | +5,974,000 |
| (5) 資産運用収入 | 281,966 | +81,966 |
| (6) 事業収入 | 600,219 | +219 |
| (7) 雑収入 | 1,513,704 | +53,704 |
| (8) 帰属収入合計 | 855,337,269 | +6,224,269 |
| (9) 基本金組入額合計 | △29,056,819 | △3,056,819 |
| 消費収入の部合計 | 826,280,450 | +3,167,450 |

支出の部

(単位：円)

| 科目 | 決算額 | 予算比差異 |
|--------------|-------------|-------------|
| (1) 人件費 | 449,359,615 | +6,859,615 |
| (2) 教育研究経費 | 190,981,948 | +5,781,948 |
| (3) 管理経費 | 55,836,890 | +1,566,890 |
| (4) 借入金等利息 | 142,919 | △57,081 |
| (5) 資産処分差額 | 237 | +237 |
| 消費支出の部合計 | 696,321,609 | +14,151,609 |
| 当年度消費収入超過額 | 129,958,841 | |
| 前年度繰越消費収入超過額 | 459,698,381 | |
| 基本金取崩額 | 0 | |
| 翌年度繰越消費収入超過額 | 589,657,222 | |

3. 貸借対照表

「貸借対照表」は、平成 27 年 3 月 31 日現在の資産・負債の状態を表します。

図表 3 の各項目について、「資産の部」から説明します。

【資産の部】 1 万円未満切捨て

- (1) 「固定資産」は、前期末比 4 億 6,443 万円増加しました。「固定資産」の内訳は「有形固定資産」（前期末比 4 億 6,331 万円増）、「その他固定資産」（前期末比 112 万円増）で、第 2 キャンパス用に埼玉県より購入した旧県立幸手高校の土地、校舎が増加の要因です。
- (2) 「流動資産」は、前期末比 2 億 1,892 万円増加しました。「流動資産」の内訳は「現金預金」（前期末比 2 億 2,049 万円増）、「未収入金」282 万円（前期末比 167 万円減）等になっています。

【負債の部】 1 万円未満切捨て

- (1) 「固定負債」は、「退職給与引当金」で、835 万円（前期末比 165 万円増）でした。
- (2) 「流動負債」は、8 億 2,185 万円で、前期末比 5 億 2,269 万円増加しました。内訳は、「短期借入金」5 億円（前期末比 5 億円増）、「未払金」3,556 万円（前期末比 1,047 万円増）、「前受金」2 億 1,232 万円（462 万円減）、「預り金」7,397 万円（前期末比 1,683 万円増）です。「短期借入金」については、第 2 キャンパス用に旧県立幸手高校を埼玉県から 5 億 1,479 万円で購入した際に、金融機関から短期借入金として 5 億円を借り入れたものです。

【基本金の部】 1 万円未満切捨て

「基本金」とは、「学校法人が、その諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持する」ことを目的とするものです。

その内「第 1 号基本金」は、学校法人が設立当初に取得した固定資産で教育の用に供されるものの価額及び新たな学校の設置あるいは既存の学校の規模の拡大や教育の充実向上のために取得した固定資産の価額となります。

「第 4 号基本金」は、学校法人運営の安定のため、恒常的に保持すべき資金のことで、前年度の消費支出のうち、①人件費（退職金・退職給与引当金繰入額を除く）②教育研究経費（減価償却費を除く）③管理経費（減価償却費を除く）④借入金利息の決算額合計を 1 2 で除して得られた額以上が必要です。

平成 26 年度末で、「第 1 号基本金」は、（前期末比 2,905 万円増）、「第 4 号基本金」は、（前期末比増減なし）を計上しています。

【消費収支差額の部】 1 万円未満切捨て

「消費収支計算書」の「翌年度繰越消費収入超過額」（前期末比 1 億 2,995 万円増）を計上することになります。

以上の項目を合計した「負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計」は「資産の部合計」と同額になります。

図表 3 貸借対照表

(単位：円)

| 資産の部 | | |
|------------------------|---------------|--------------|
| 科目 | 本年度末 | 前年度末比増減 |
| (1) 固定資産 | 1,310,453,474 | +464,435,711 |
| (2) 流動資産 | 1,420,440,097 | +218,929,787 |
| 資産の部合計 | 2,730,893,571 | +683,365,498 |
| 負債の部 | | |
| (1) 固定負債 | 8,358,336 | +1,659,142 |
| (2) 流動負債 | 821,857,475 | +522,690,696 |
| 負債の部合計 | 830,215,811 | +524,349,838 |
| 基本金の部合計 | 1,311,020,538 | +29,056,819 |
| 消費収支差額の部合計 | 589,657,222 | +129,958,841 |
| 負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計 | 2,730,893,571 | +683,365,498 |

以上